

令和2年度第1回挑戦科研研究会  
2021.3.5.

# お茶大新フンボルト入試の現状と課題

お茶の水女子大学 安成英樹

## ○制度設計

大学教育再生加速プログラム(AP)採択（2014～2019年、6年間）

旧AO入試を大きく改革、知の応用力・ポテンシャルを見極める

(一次選考) プレゼミナール

(二次選考) 図書館入試・実験室入試

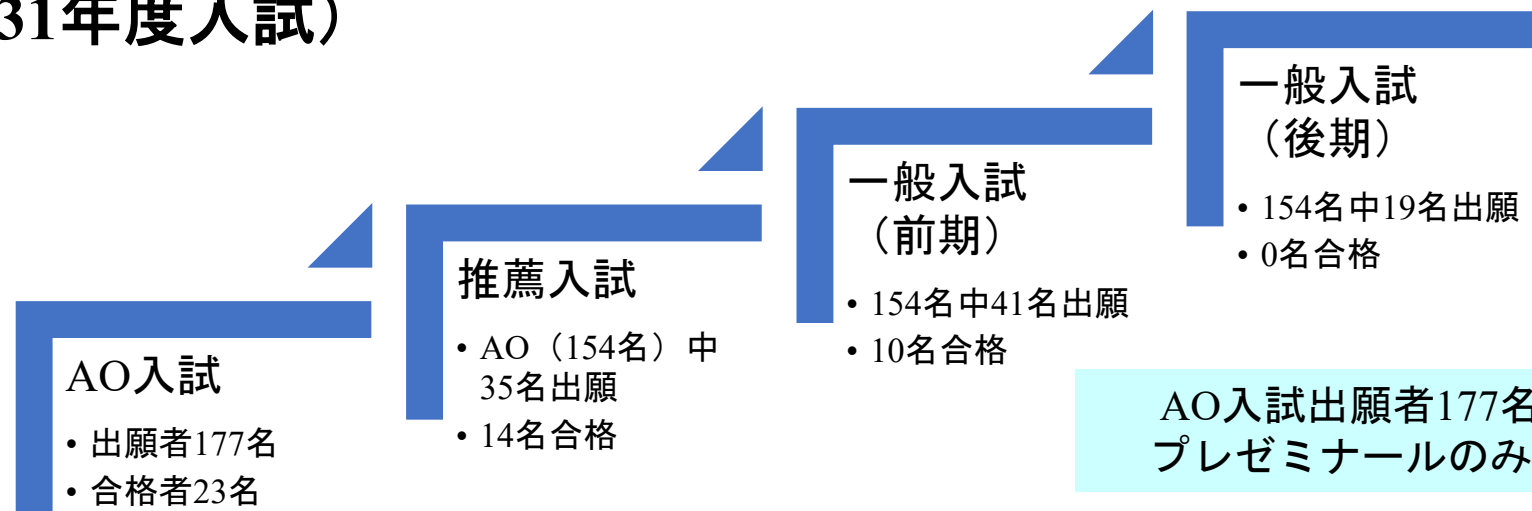
## ○実施状況(2016-2019)

2015年度 プレゼミナールのみ先行実施

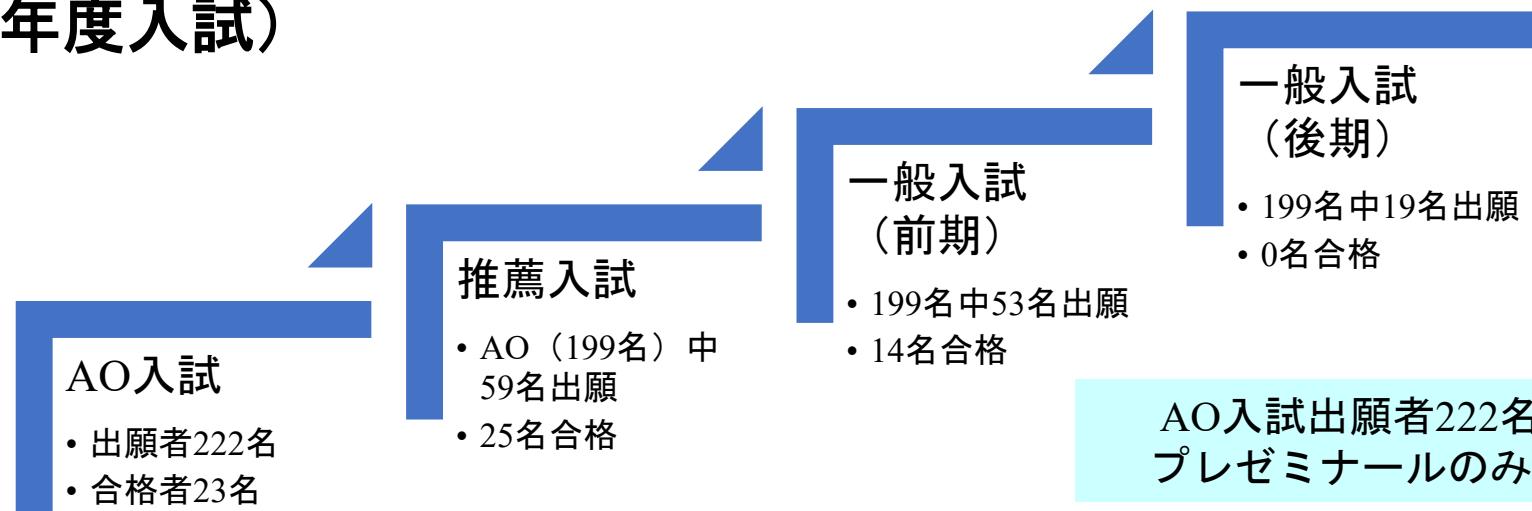
2016年度～ 新フンボルト入試正式導入（全学で定員20名）

年度	平成27	平成28	平成29	平成30	令和1
プレゼミナール初日参加者数	265 (試行)	358	382	364	454
新フンボルト入試出願者数	(64)	198	192	177	222
うち文系出願者	—	113	118	120	151
うち理系出願者	—	85	74	57	71
第1次選考合格者数	—	83	75	80	83
第2次選考(最終)合格者数	(6)	20	21	23	23

# AO出願と推薦入試・一般入試出願との相関関係 (H31年度入試)



# (R2年度入試)



## ○2020年度の制度変革（後退？）

AP事業費終了、自前の財源で実施

理系の実施時期、実施方法を大きく変更（推薦入試と統合し、AO入試として11月末）

プレゼミナール受講を必須とせず、一次は書類選考

文系図書館入試は従来通り

定員増 20→36（文系12、理系は学科毎定員化、総計24）……「退化」？

新型コロナウイルス対応

オープンキャンパス中止（新フンボルト入試説明会のみZoom実施）

プレゼミナール、図書館入試、実験室入試、いずれもかろうじて対面実施

2021年3月 新フンボルト一期生が卒業

9月 Webオープンキャンパス実施

2019年度に続いて、新フンボルト合格者主導による「合格者座談会」を企画・実施

合格者の追跡調査、分析評価は道半ば（道遠し）

# ○2020年 プレゼミナール 参加状況

全体：273名（文系セミナー：204名、理系セミナー：62名、  
図書館情報検索レクチャーのみ：2名、生物学科企画のみ：5名）

## セミナー別参加者数

### <文系セミナー>

セミナー	定員	受験者	非受験者	参加者合計
1 都市地理学（宮澤）	30	12	11	23
2 日本古典文学（浅田）	30	28	18	46
3 応用言語学（西川）	30	28	10	38
4 教育社会学（大多和）	30	31	11	42
5 消費者経済学（大森）	30	1	4	5
6 犯罪心理学（高橋）	30	31	19	50
合計		131	73	204

### <理系セミナー>

セミナー	定員	参加者
A 物理（森川）	なし	24
B 生物（毛内）	20	17
C 情報（工藤）	20	21
合計		62

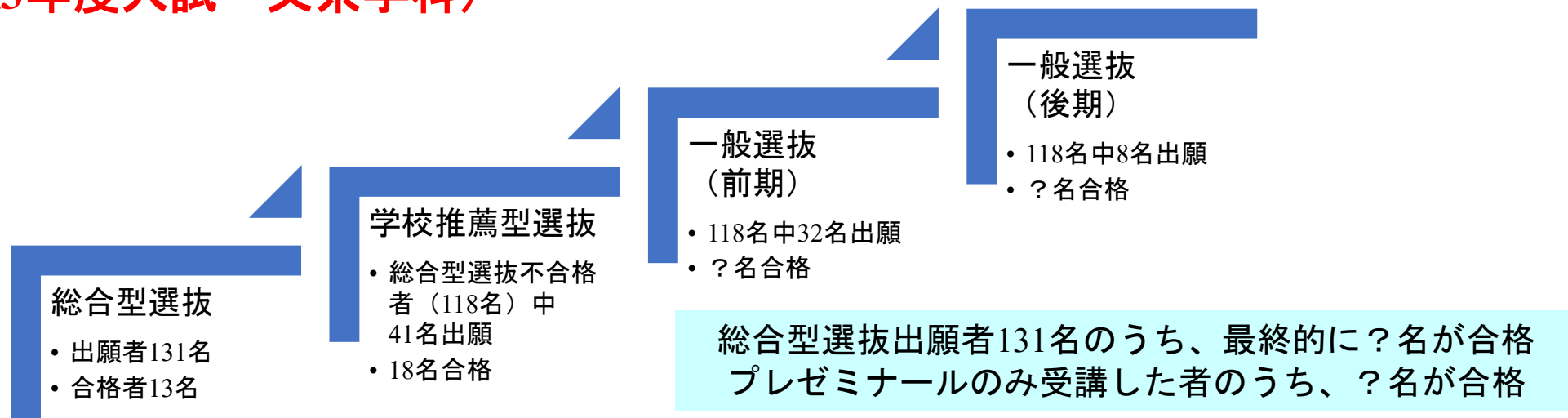
# 令和3年度総合型選抜 結果概要 (令和2年度実施)

	出願者数	一次合格者	二次合格者 (定員)
文系	131	—	13 (12)
理系	85	—	22 (36)
数学科	3	—	2 (3)
物理学科	3	—	1 (3)
化学科	14	—	2 (2)
生物学科	14	—	4 (5)
情報科学科	16	—	9 (7)
食物栄養学科	26	—	2 (2)
人間・環境科学科	9	—	2 (2)
<b>合計</b>	<b>216</b>	<b>96</b>	<b>35</b>

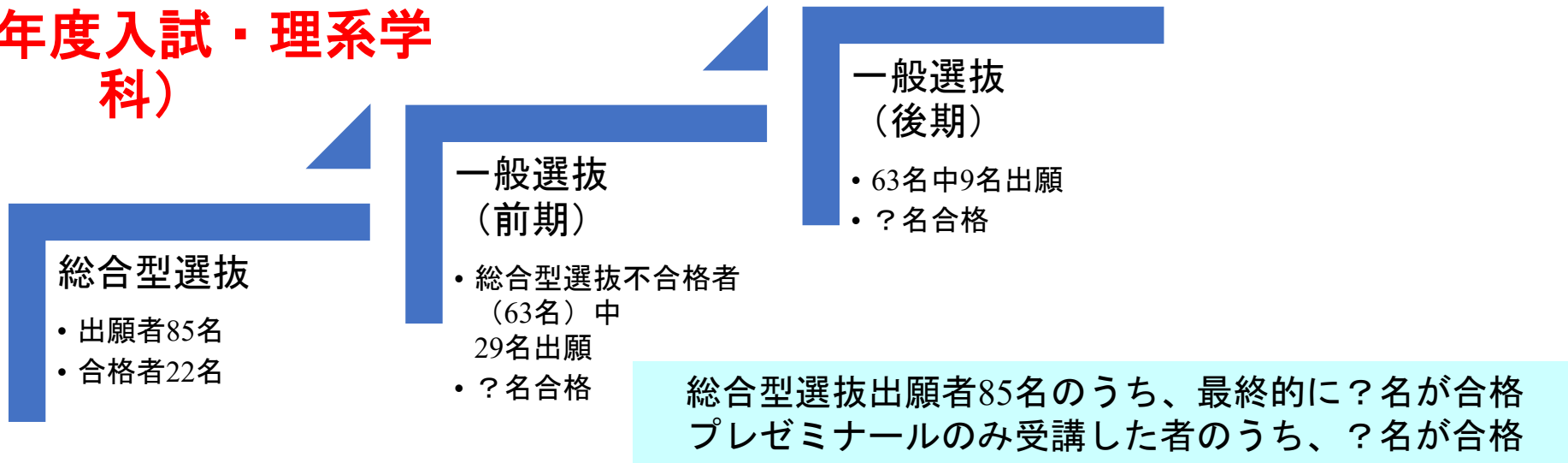
## 合格者35名の出身地域分布

関東20 (東京8、神奈川3、埼玉5、千葉1、茨城1、群馬2)、  
北海道1、東北2、甲信2、東海2、北陸3、近畿2、四国1、九州2

# 総合型選抜出願と推薦入試・一般入試出願との相関関係 (R3年度入試・文系学科)



# (R3年度入試・理系学科)



## ○新フンボルト入試の展望と課題（1）

### ・“カネ”のこと

AP事業終了（年ベースで1200万以上）→すべて自前の財源（きわめて吝い）

とくに人件費の抑制……在学生の活用（TA、入学前教育チューター等の雇用）が困難

### ・“ヒト”のこと

テニユア教員は全学で180名、入試課職員は常勤5名

今後入試担当の特任講師（最長5年任期）を継続的に雇用することが確定（一歩前進）

年中入試のことを考えている(それが主務の)、調査・分析業務のできる専任スタッフが不可欠

本学独自の入試センターの欠如、適任者の希少性……大学入試学を担う人材の薄さ

AP事業5.5年間で4度の人事（講師不在期間は延べ9ヵ月）、うち2回は再公募

任期2年で交替する入試推進室長・入試委員→新機軸・理念の陳腐化、ルーティン化

次年度新フンボルト運営の中核者は全員退任→個人的にはまことに不幸なことに



## ○新フンボルト入試の展望と課題(2)

### ・ “テーマ”のこと

丁寧な面白い入試→実施には複雑で多岐にわたる準備（会議）、各所との調整が必要  
2019年度からの負担軽減、簡素化→やむをえないことだが、2020からの実施方法には深刻な懸念

プレゼミのセミナー間の調整……メニュー(担当者)調整、受験者・受講者の偏り補正

プレゼミメニューの「痩せ細り」（全体説明、情報検索演習）→受講者の先細り

とくに理系の「じり貧」は深刻（プレゼミの選考過程からの排除は予想通り志望者大幅減に直結）

入試運営で手一杯、合格者の追跡評価のノウハウ未確立

### ・ “環境”と“運命（不運）”

入試運営上の数々の困難……学内の無理解・交渉の困難に加えて、外的な阻害要因（七難八苦）

膨大な書類書き（AP）、図書館改修、台風接近、そしてコロナ